

第1部 2011年度第2四半期決算概要 及び 2011年度業績予想

専務執行役員 別川俊介

2011年度第2四半期 業績サマリー

単位: 億円

■ ポイント

(1) 受注高

- ・前年同期比大幅増。
- ・全セグメントで増加。

(2) 売上高

- ・前年同期比増加するも、環境・プラントのみ減少。
- ・船舶引渡しは前年同期と同じ4隻。

(3) 営業利益

- ・売上高増により32%増加。

(4) 純利益

- ・投資有価証券評価損等の計上により、17%増加にとどまる。

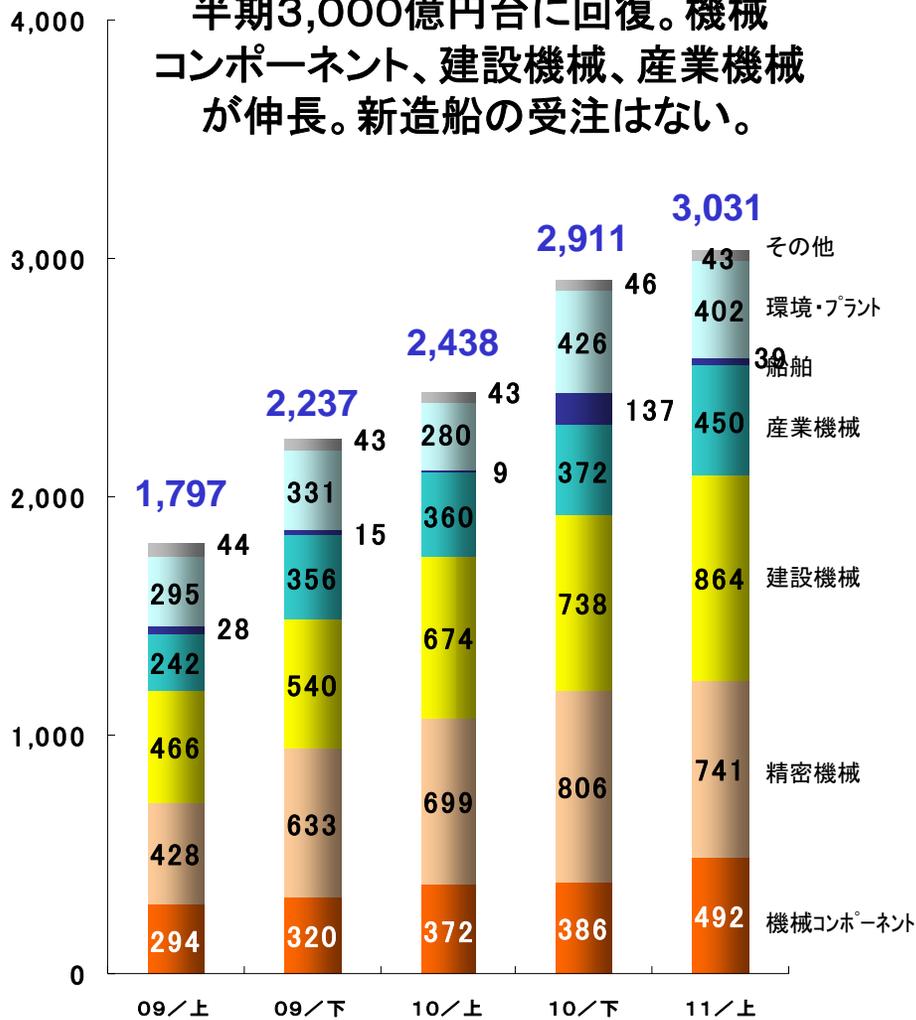
	2011/上	2010/上	増減
受注高	3,031	2,438	593
売上高	2,941	2,519	421
営業利益	216	163	53
営業利益率	7.3%	6.5%	0.9%
経常利益	202	148	54
経常利益率	6.9%	5.9%	1.0%
特別損益	△28	△5	△23
純利益	92	79	13
純利益率	3.1%	3.1%	0.0%

受注・売上 半期推移

単位: 億円

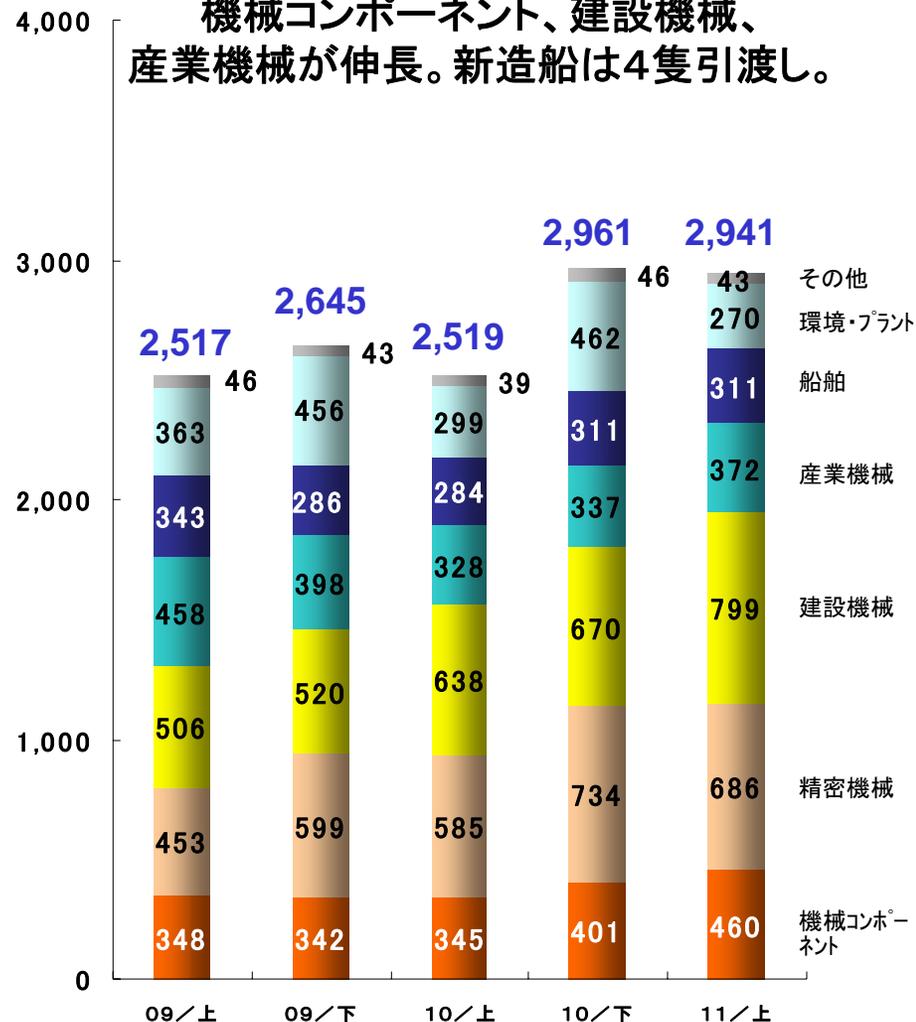
受注高

半期3,000億円台に回復。機械コンポーネント、建設機械、産業機械が伸長。新造船の受注はない。



売上高

機械コンポーネント、建設機械、産業機械が伸長。新造船は4隻引渡し。



セグメント別営業利益

単位: 億円

■ 対前年度比較

<機械コンポーネント>

海外売上の伸びにより増益。

<精密機械>

射出成形機は売上増およびデマーク社改善により大幅増益。SEN、精密機器が好転。

<建設機械>

油圧ショベルは中国向けが減速するも、他地域需要増により好転。

<産業機械>

運搬機械の売上が減少し減益。

<船舶>

引渡し隻数は4隻と同じだが、今期はうち2隻が円建てで採算好転。

<環境・プラント>

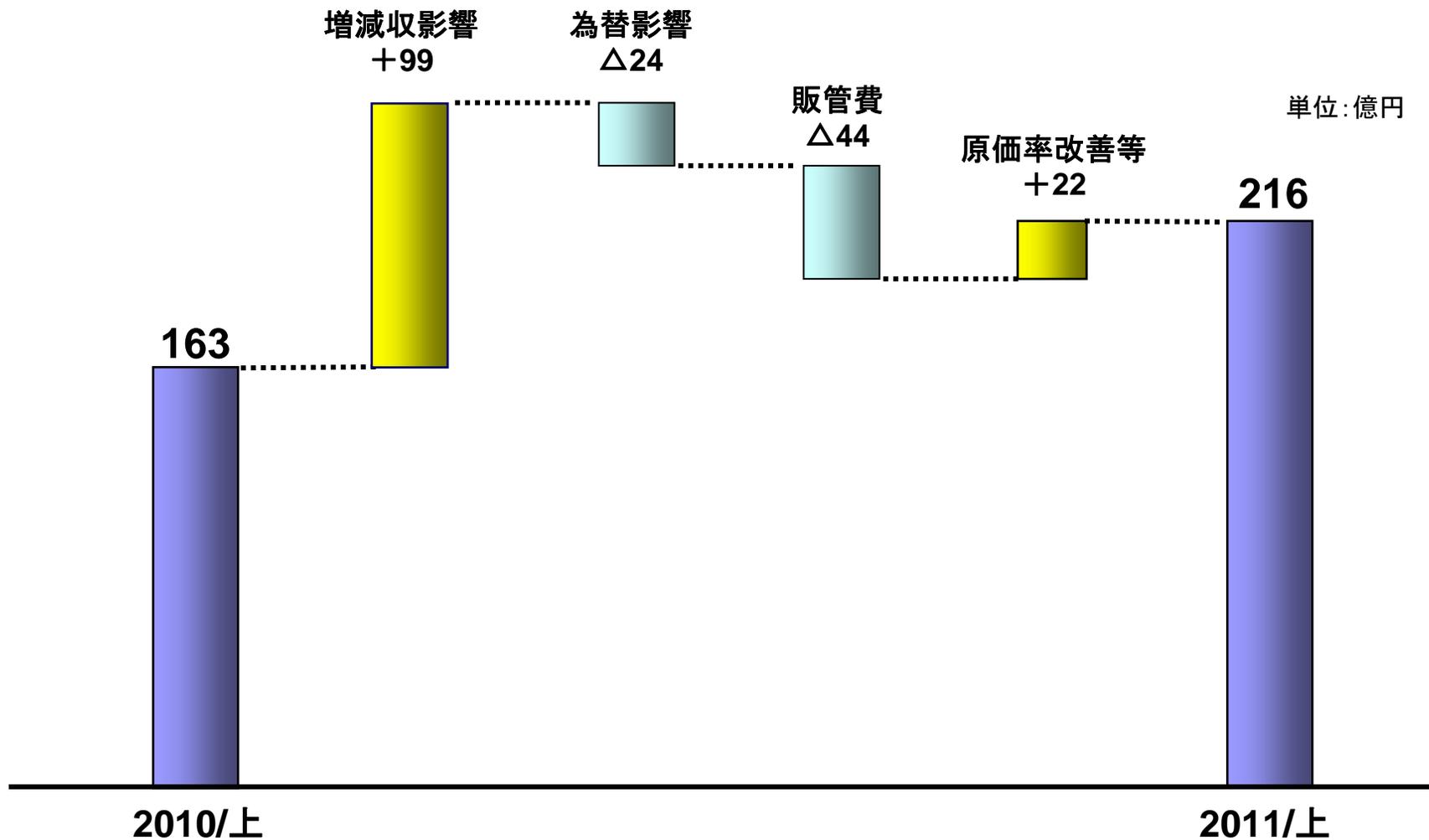
売上高減少および工事進捗遅れによる採算悪化。

■ 対予想比較

精密機械、建設機械、産業機械、船舶で見込みより好転。

	2011/上	2010/上	増減
機械コンポーネント	22	16	6
精密機械	60	17	43
建設機械	39	31	8
産業機械	49	54	△5
船舶	57	32	25
環境・プラント	△20	6	△26
その他	8	7	1
計	216	163	53

營業利益增減分析(2010/上—2011/上)



連結貸借対照表

単位:億円

	2011/9末	2011/3末	増減		2011/9末	2011/3末	増減
流動資産	3,803	3,653	150	負債	3,648	3,574	74
現預金	575	525	50	買掛債務	1,356	1,320	37
売上債権	1,584	1,553	31	前受金	384	333	52
たな卸資産	1,384	1,310	73	有利子負債	736	678	58
その他	261	266	△4	その他	1,171	1,244	△72
固定資産	2,592	2,615	△23	純資産	2,747	2,694	53
有形固定資産	2,157	2,142	16	株主資本	2,479	2,426	52
無形固定資産	64	69	△6	その他の包括 利益累計額	237	247	△10
投資その他の 資産	371	404	△33	少数株主持分	31	21	10
合計	6,395	6,268	127	合計	6,395	6,268	127
				ネット有利子負債 比率	2.5%	2.4%	0.1%
				自己資本比率	42.5%	42.6%	△0.1%

連結キャッシュフロー計算書

単位:億円

区 分	2011/上	2010/上	増減
営業活動	135	144	△8
税金等調整前四半期純利益	174	143	31
減価償却費	85	87	△2
運転資本	△2	14	△15
その他(税金等)	△122	△101	△22
投資活動	△87	△96	9
フリーキャッシュ・フロー	49	48	1
財務活動	△6	△221	215
現金・現金同等物増減	40	△177	217
現金・現金同等物期末残高	564	440	125

2011年度セグメント別業績予想

単位: 億円

- ポイント (1) 受注は機械コンポーネント、建設機械で若干減速を織り込む。船舶は下期2隻を織り込み。
 (2) 売上は機械コンポーネント、精密、建機、産機で前期比増加。船舶は下期3隻の計画。
 (3) 営業利益は機械コンポーネント、精密、建機で前期比増加。

		2010下期 実績	2011上期 実績	2011下期 予想	2011年度 予想	2010年度 実績
機械コンポーネント	受注高	386	492	498	990	758
	売上高	401	460	480	940	746
	営業利益	32	22	38	60	49
精密機械	受注高	806	741	809	1,550	1,505
	売上高	734	686	814	1,500	1,319
	営業利益	67	60	70	130	83
建設機械	受注高	738	864	886	1,750	1,412
	売上高	670	799	901	1,700	1,308
	営業利益	22	39	36	75	53
産業機械	受注高	372	450	370	820	732
	売上高	337	372	438	810	665
	営業利益	49	49	56	105	103
船舶	受注高	137	39	111	150	146
	売上高	311	311	259	570	595
	営業利益	67	57	43	100	99
環境・プラント	受注高	425	402	448	850	706
	売上高	462	270	530	800	761
	営業利益	50	△20	70	50	56
その他	受注高	46	43	47	90	89
	売上高	46	43	37	80	86
	営業利益	8	8	12	20	16
合計	受注高	2,911	3,031	3,169	6,200	5,349
	売上高	2,961	2,941	3,459	6,400	5,480
	営業利益	295	216	324	540	458

2011年度業績予想

■ ポイント

- (1) 為替の前提を従来1ドル80円から77円に修正するも、営業利益は据え置き。
- (2) 中間配当4円を復活し、通期では期初公表どおり10円配当へ。

単位：億円

	2011上期実績	2011下期予想	2011年度予想	2010年度実績
受注高	3,031	3,169	6,200	5,349
売上高	2,941	3,459	6,400	5,480
営業利益	216	324	540	458
営業利益率	7.3%	9.4%	8.4%	8.4%
経常利益	202	303	505	443
経常利益率	6.9%	8.8%	7.9%	8.1%
特別損益	△28	△2	△30	8
当期純利益	92	188	280	279
当期利益率	3.4%	5.4%	4.4%	5.1%
配当	4円	6円	10円	8円
配当性向	-	-	21.9%	17.4%
ROIC (税引後)	-	-	8.3%	7.8%
織込レート(ドル)	88円(実績)	77円	-	92円(実績)

第2部 経営戦略

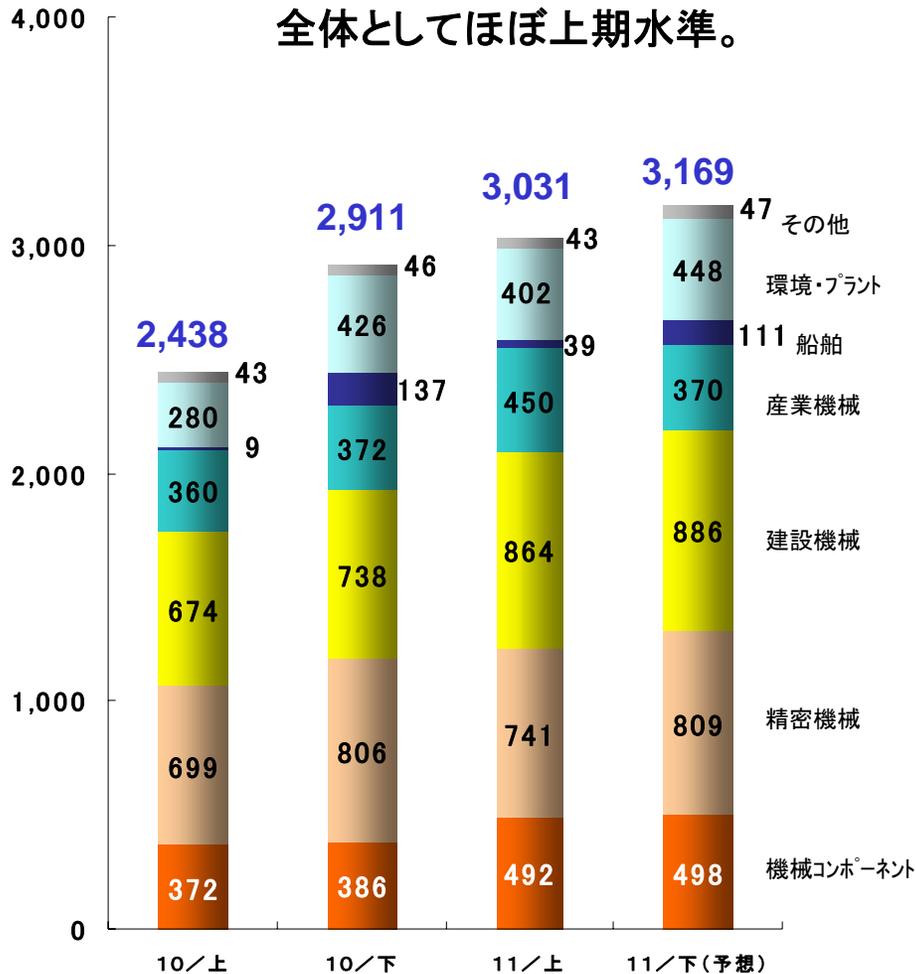
社長 中村 吉伸

受注・売上 半期推移

単位: 億円

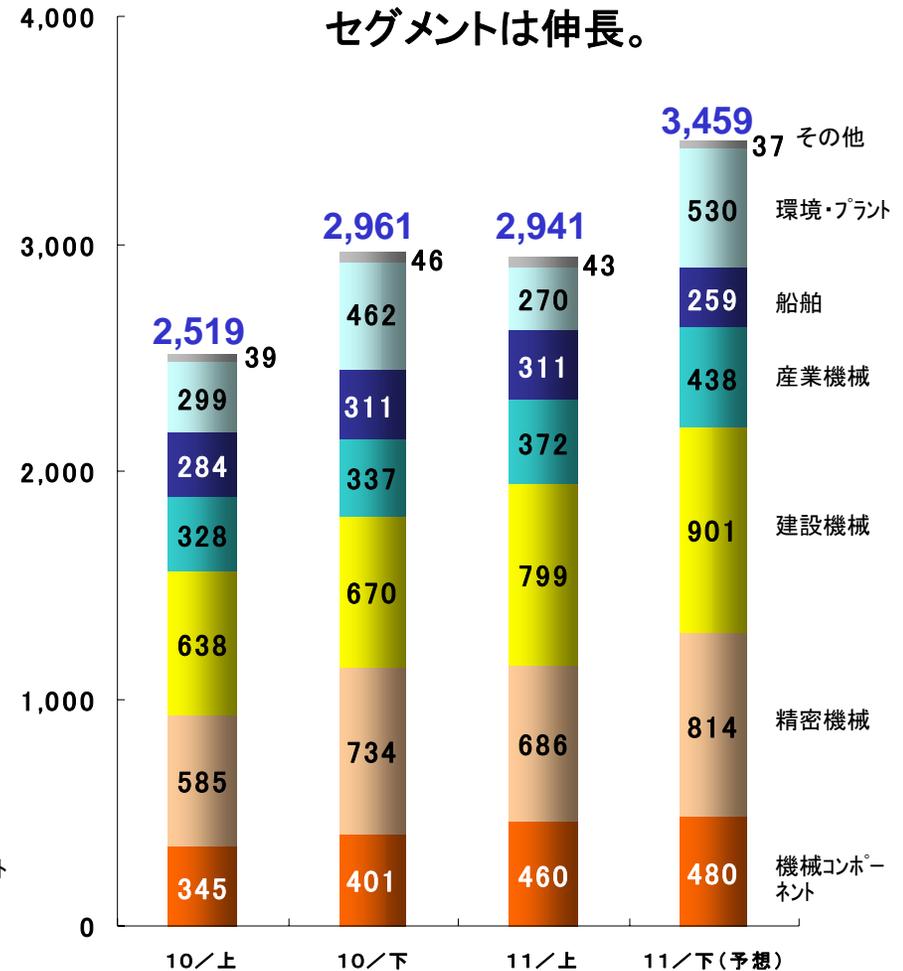
受注高

11年度下期は不透明な経済状態であり、
全体としてほぼ上期水準。



売上高

船舶は下期3隻の引渡し。船舶以外の
セグメントは伸長。



2011年度セグメント別受注環境

- 量産機械系では受注は概ね堅調なるも、世界の景気の先行きに不透明感がある。
- 重機械系の受注環境は一部を除いて依然厳しい状況が続く。

単位：億円

セグメント	受注環境	2011年度受注金額		
		上期実績	下期予想	通期予想
機械コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> ・国内は上期復興需要もあり堅調だが、下期は減速傾向。円高の影響等で先行き不透明。 ・海外では、米欧の景気減速、新興国の景気拡大ペース鈍化の見込み。 	492	498	990
精密機械	<ul style="list-style-type: none"> ・射出成形機は、中国・アジアで先行き不透明のため需要が減少傾向。米欧では自動車を中心に引合いあるも先行き不透明。 ・医療関連は、海外中心に引合いあるものの実現に時間がかかっている。 ・半導体は、一部復興需要があるも円高等による市況悪化で設備投資減少。 	741	809	1,550
建設機械	<ul style="list-style-type: none"> ・油圧ショベルは北米が回復する一方、中国市況軟化。 ・モバイルクレーンは上期は米国での市況がやや回復したが下期は市況が軟化。 	864	886	1,750
産業機械	<ul style="list-style-type: none"> ・タービンは、新興国における自家発電向けの需要が強い。ポンプは中東案件の延期、中止に加え価格競争激化。 ・クレーンは上期復興対応を優先。下期は国内造船、鉄鋼市場向けが軟化傾向。 	450	370	820
船舶	<ul style="list-style-type: none"> ・新造船はタンカー市況の低迷状態が続いているうえ、円高が継続して厳しい。 	39	111	150
環境・プラント	<ul style="list-style-type: none"> ・産業用ボイラ市況は引き続き低調。 ・水処理設備は上期復興にも対応。民需、官需案件ともに堅調。 ・上期は反応容器が好調。 	402	448	850
その他	—	43	47	90
	合計	3,031	3,169	6,200

機械コンポーネント

変減速機:

11上期: 新興国の市況拡大に加え、ハンセン社買収により欧州事業の拡大も寄与したことから、ほぼすべての機種が前年同期よりも好転、受注・売上ともに増加。

国内ではロボット用精密減速機の受注が前年同期比増加。

11下期: 国内では、水処理向け等期待できる分野もあるが、全般的に価格競争激化が懸念される。海外では、引き続き新興国で、資源・インフラ関連向けの中型・大型減速機で受注を伸ばす。唐山工場は、中国国内向け大型減速機工場として整備する一方、小型ギヤモータはベトナムシフトでコストダウン実施。ブラジル工場稼動により、中南米の需要を取り込んでいく。



精密機械

プラスチック加工機械：

11上期：中国を中心とした北アジア市場で需要が減少し日本はやや低調。欧州市場は堅調。

受注・売上とも増加。

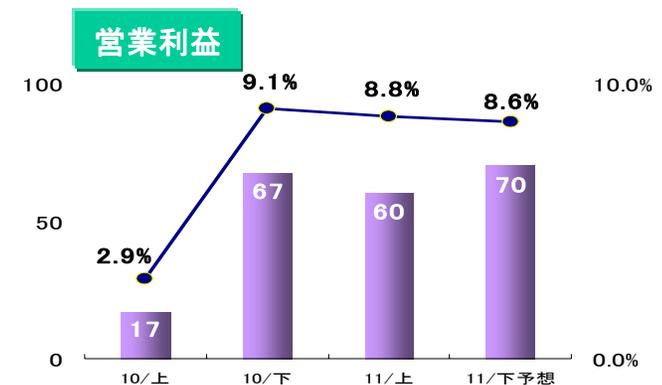
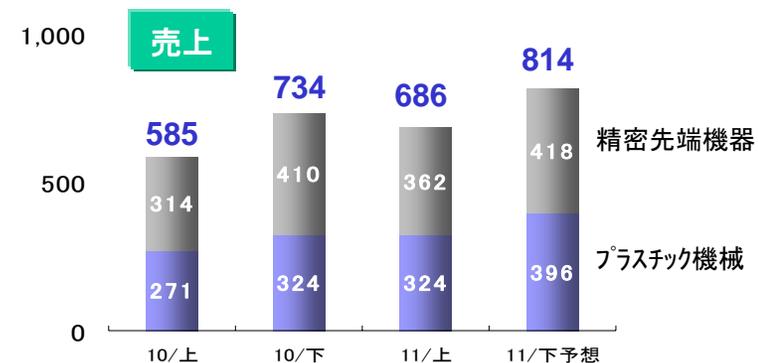
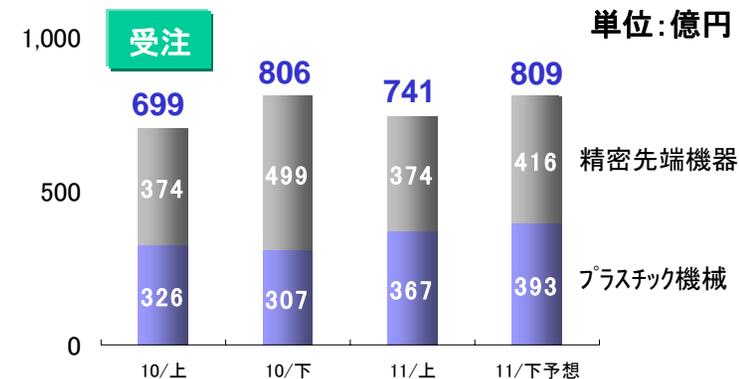
11下期：国内の総需要は低調に推移の見込み。

円高の影響もあり、競争激化が予想されるが新機種投入で巻き返しを図る。

精密先端機器：

11上期：陽子線治療装置受注はないものの極低温冷凍機は堅調に推移。半導体製造装置も健闘。

11下期：極低温冷凍機は堅調継続。半導体製造装置関連は、市況悪化により厳しい展開。



建設機械

ショベル・道路機械:

11上期: 油圧ショベル事業は震災によりサプライチェーンの混乱があったものの、早期に回復。

受注・売上とも増加。

11下期: 中国市場は減速しているものの北米は回復基調にあり受注は上期並、売上は受注残対応で増加を見込む。インドネシア工場稼動により東南アジアで販売拡大を目指す。

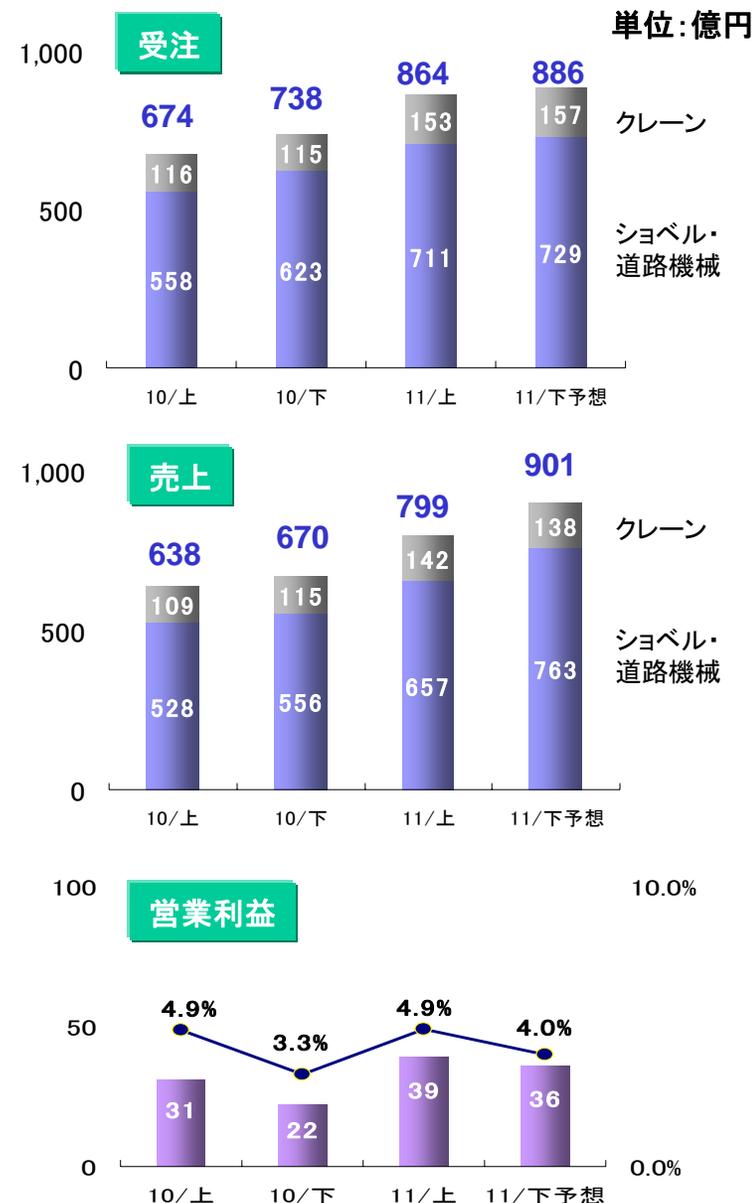
クレーン:

11上期: 北米市場でのインフラ整備の需要回復により、受注・売上は増加。

11下期: 下期は市況軟化に伴い減速懸念。

営業利益:

為替、鋼材等の影響により油圧ショベルの下期売上分の利益率低下。



産業機械

鍛造プレス:

11上期: 日系メーカーの海外工場向けに受注回復。

11下期: 引き続き海外案件のフォローおよびアフターマーケットの事業を強化し、受注を確保する。

運搬機械:

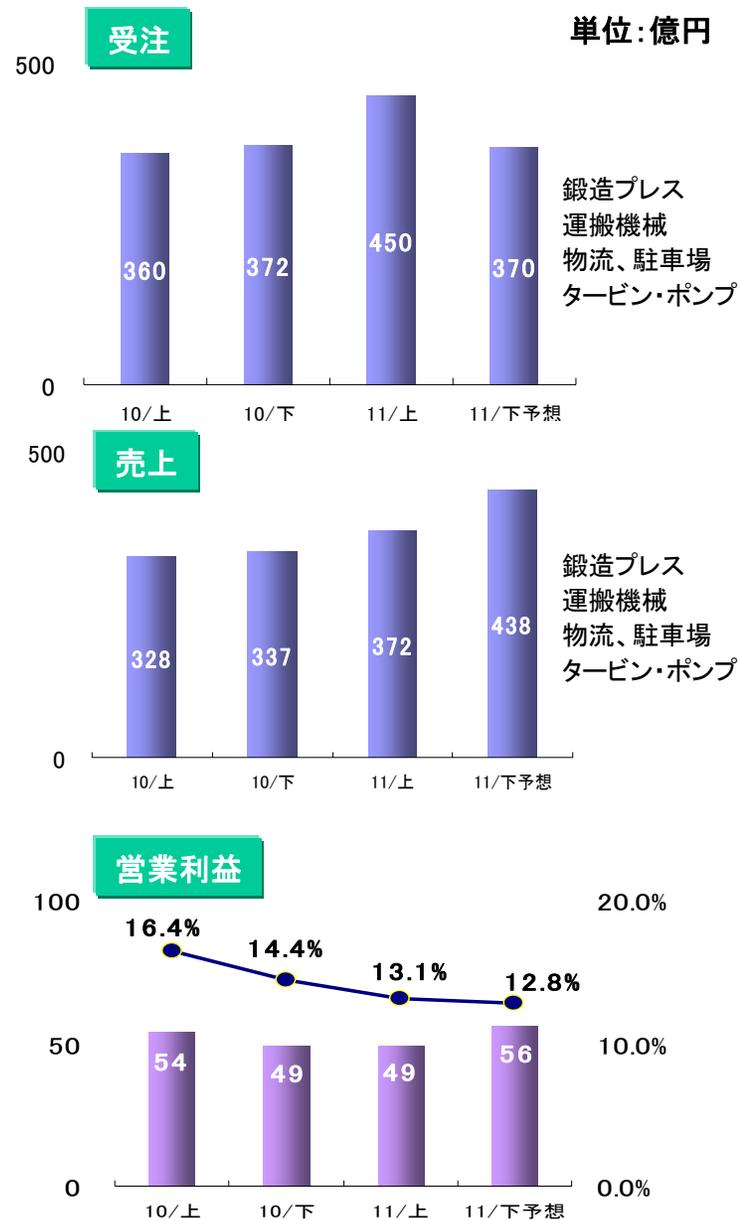
11上期: 震災復興対応を優先的に実施。受注は前年度比増加するも売上げは減少。

11下期: 造船、製鉄向け案件の減少、実現度の不透明感が出ており、受注確保に注力。

タービン・ポンプ:

11上期: タービンは、北米・東南アジアなどでのバイオマス発電など資源・エネルギー関連で受注・売上とも増加。ポンプは中東情勢の影響もあり低調。

11下期: タービンは東南アジアでの営業強化をさらにすすめる。ポンプは韓国EPCから受注確保を目指す。



船舶

船舶:

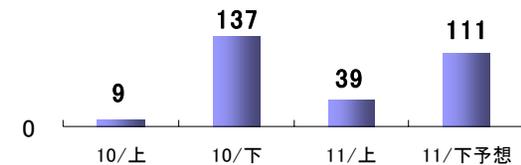
11上期: タンカー市況は依然回復せず、船主の様子見が継続しており、上期の新造船受注はゼロ。売上は前年同期同様4隻。
修理船については受注が堅調。

11下期: 受注環境が厳しいため、期初受注計画から1隻減の2隻受注を織り込むも先行きは不透明。売上は3隻を予定。

500

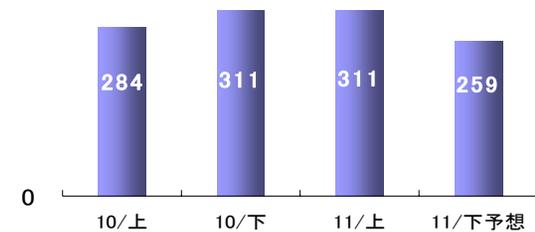
受注

単位:億円



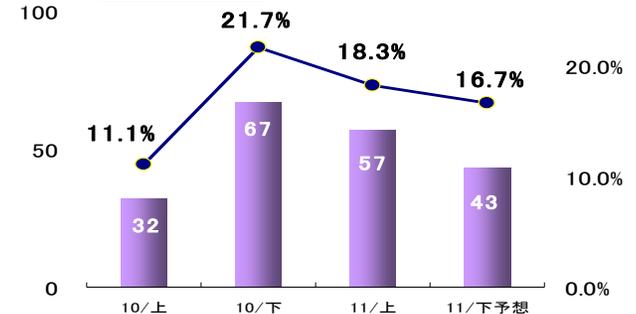
500

売上



100

営業利益



環境・プラント

エネルギー環境:

11上期: ボイラの受注1件のみと低調。

11下期: 09下期にシンガポールで受注したボイラの案件を足がかりに、東南アジアでの営業を継続して強化する。

水環境:

11上期: 震災復興対応もあり受注は増加するも、前年度受注が低調であったため、売上は減少。

11下期: 引き続き民需案件での受注に注力し、営業活動を強化する。

鉄構・機器:

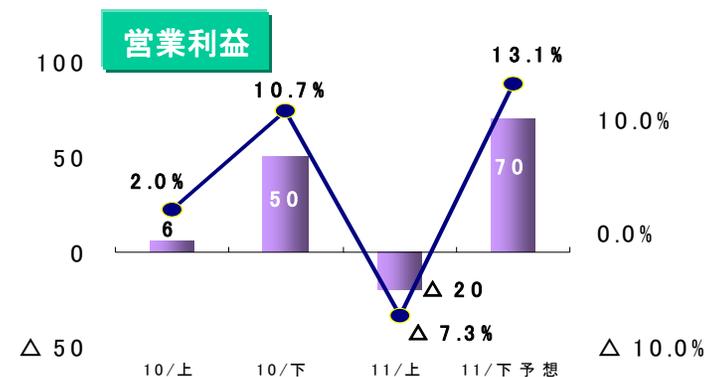
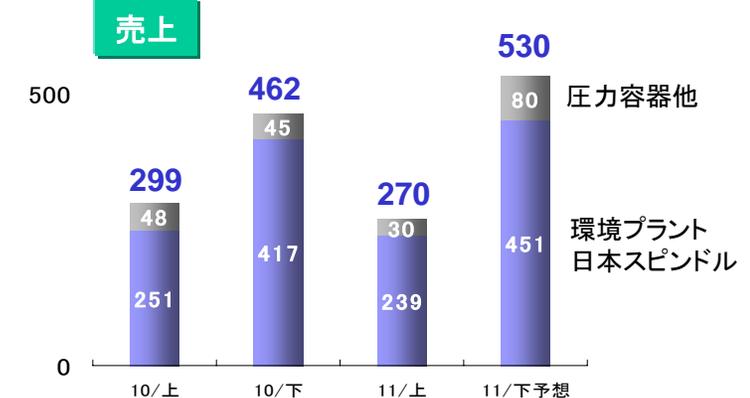
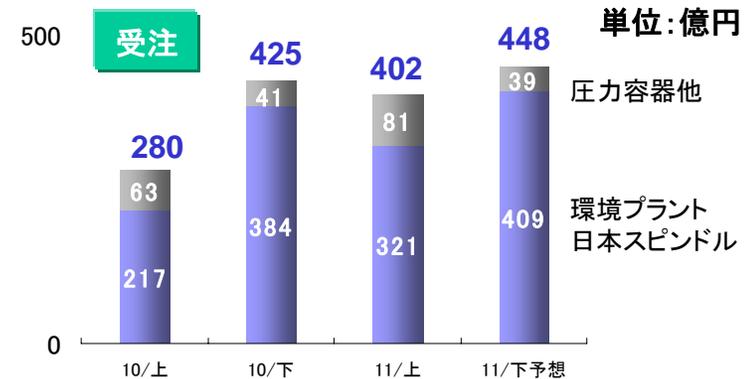
11上期: 反応容器受注案件増。

11下期: 北米、アジア、中南米で案件活発化するも為替影響もあり競争激化。

日本スピンドル:

11上期: 産機事業、環境空調事業とも受注好調。

11下期: 新興国設備投資案件や高炉、電炉向け集塵機の営業活動を強化。食品機械は飲料向け等の増設案件などに注力。



インドネシア工場稼動開始

■ ポイント

- (1) 東南アジア地域への油圧ショベル供給拠点としてインドネシアで9月に稼動開始。
- (2) 生産能力: 1000台(2012年度) ⇒ 2000台へ早期拡大。
- (3) コスト競争力を上げ、成長著しい東南アジア地域での需要を取り込み販売を拡大する。

■ 会社概要

社名	PT. SUMITOMO S.H.I. CONSTRUCTION MACHINERY INDONESIA		
所在地	インドネシア共和国 カラワン県		
資本金	3,300万USD(日本円 約30億円)		
設立	2010年9月		
敷地	約110,000㎡	建屋面積	約23,000㎡
従業員数	約200名		
操業開始	2011年9月		
設備投資額	約28億円 (土地、工場建物、加工・組立・塗装設備等)		
売上高	約45億円(2012年度)		



インドネシア生産第1号機の前に並ぶ現地従業員



開業式典で祝辞を述べるインドネシア工業省ヒダヤット大臣

ブラジル工場稼動開始

■ ポイント

- (1) 南米地域への中大型減速機供給拠点として11月に稼動開始予定。
- (2) ブラジルは鉄鉱石をはじめとする資源需要、ワールドカップやオリンピック開催を控え中大型減速機の需要増にかかわるインフラ投資の拡大が期待できる。
- (3) ブラジルでの生産によりコスト競争力を上げて販売を拡大し、2015年に年間50億円の売上を目指す。

■ 会社概要

社名 SUMITOMO INDUSTRIAS PESADAS DO BRASIL LTDA

所在地 ブラジル連邦共和国 サンパウロ州

資本金 130百万リアル(日本円 約63億円)

設立 2010年7月

工場面積 約11,200㎡ 建屋面積 約2,400㎡

操業開始 2011年11月予定

生産能力 月産200台



工場本館

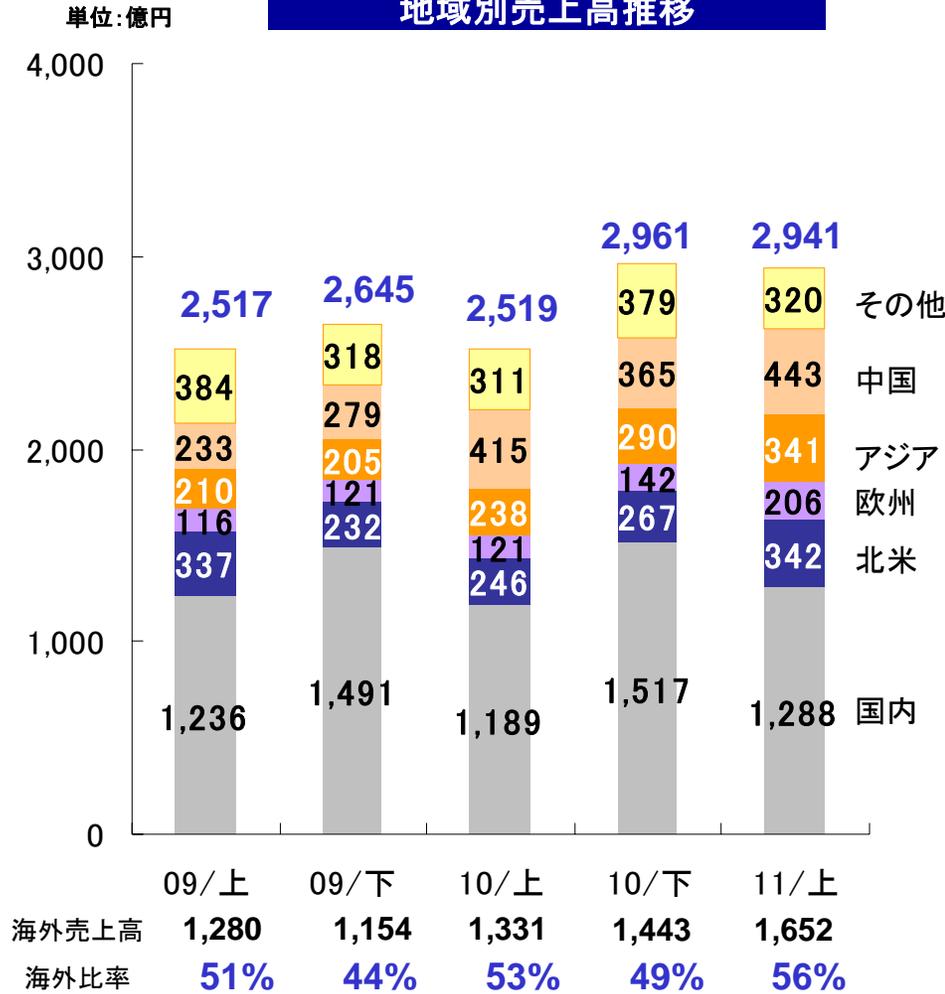


工場棟

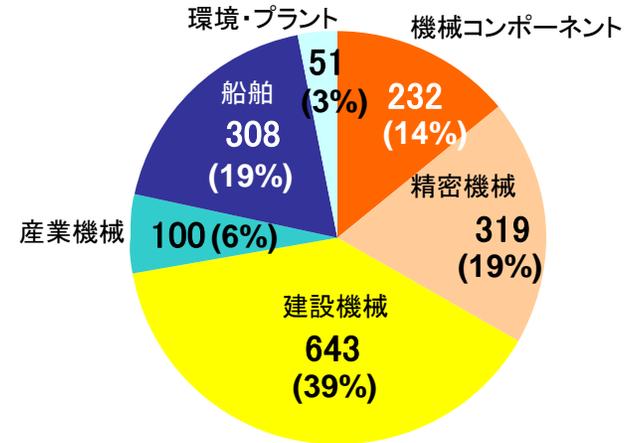
地域別売上高

単位: 億円

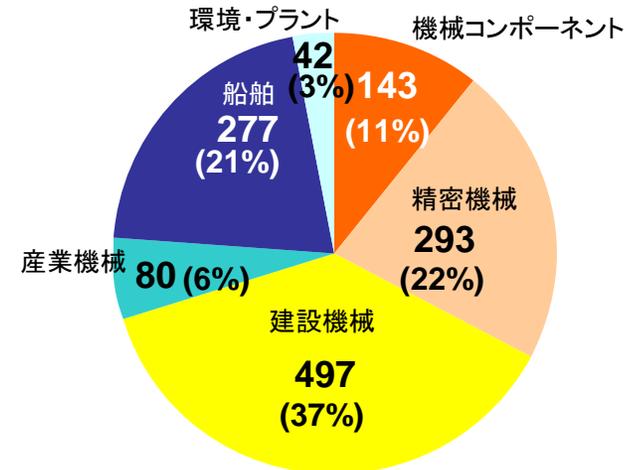
地域別売上高推移



11/上 セグメント別海外売上高



10/上 セグメント別海外売上高



経営方針

2011年度：
世界経済が不透明さを増しつつある中
先行きの情勢を慎重に見極め、
「強い住友重機械」を目指す。

- ✓ 経営規律と財務規律を守り、持続的競争優位を
確立し、健全な事業の発展を目指す。
- ✓ 保有する優れた事業ポートフォリオと人材を活用して、
如何なるときにも堅実に収益を確保する。
- ✓ 時勢の変遷を見極め、攻めと守りの施策を
バランス良く実践する。

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。